

2023年度(令和5年度) 前期日程 物理 解答例

I

問1

(1)

$$\frac{1}{2} \left(\frac{F}{m} - \mu g \right) T^2$$

(2)

$$(F - \mu mg)x_1$$

[J]

(3)

$$\frac{F}{\mu mg} - 1$$

問2

(4)

$$3at_1^2$$

(5)

$$\mu g$$

[m/s²]

(6)

$$\frac{7}{2}t_1$$

(7)

$$-\frac{5}{4}at_1^2$$

[m]

問3

(8)

$$\frac{1}{2 \left(\frac{a}{\mu g} - 1 \right)} L$$

(9)

$$\sqrt{\frac{\mu g L}{\frac{a}{\mu g} - 1}}$$

[m/s]

(10) 時間

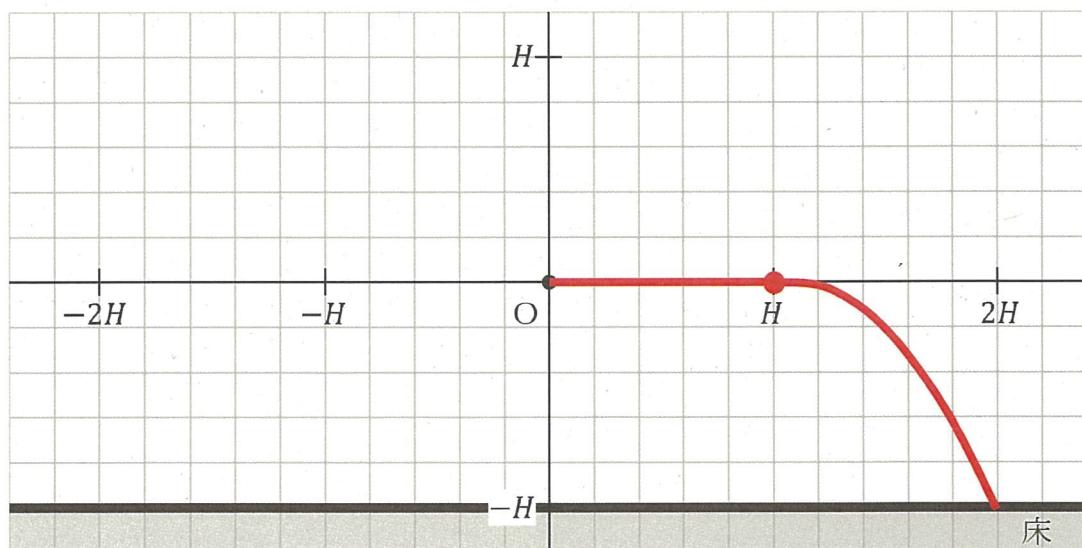
$$\sqrt{\frac{2H}{g}}$$

変位

$$\sqrt{\frac{2\mu}{\mu g} HL}$$

[m]

(11)



(12)

$$\frac{1}{4}$$

(13)

1

(14)

$$3v_0 \sqrt{\frac{H}{8g}}$$

[m]

II

問1

(1) 大きさ $\frac{\mu_0 I_1}{2\pi a}$ [T]	向き +x, -x, +y, -y, (+z) -z	(2) 大きさ $I_2 B_1 L$ [N]	向き +x, (-x), +y, -y, +z, -z
(3) $en_e v S$	[A]	(4) $en_e v S B_1 L$	[N]

問2

(5) 大きさ $\frac{Q_0}{4\pi\varepsilon_0 r^2}$ [N/C]	向き (+x) -x, +y, -y, +z, -z	(6) 大きさ $\frac{Q_0 Q}{4\pi\varepsilon_0 r^2}$ [N]	向き +x, (-x), +y, -y, +z, -z
(7) $\frac{mv_1^2}{r} = \frac{Q_0 Q}{4\pi\varepsilon_0 r^2}$		(8) $\sqrt{\frac{Q_0 Q}{4\pi\varepsilon_0 mr}}$	[m/s]
(9) 大きさ $\frac{Q_0 Q}{4\pi\varepsilon_0 r^2}$ [N]	向き (+x) -x, +y, -y, +z, -z	(10) $\frac{B_2}{\mu_0 n}$	[A]
(11) 大きさ $Qv_2 B_2$ [N]	向き +x, (-x), +y, -y, +z, -z	(12) $\frac{mv_2^2}{r} = -\frac{Q_0 Q}{4\pi\varepsilon_0 r^2} + Qv_2 B_2$	
(13) $\frac{2mv_2}{qr}$	[T]	(14) $\frac{4\pi m}{B_2 Q}$	[s]
(15) $\frac{Qv_2}{2\pi r}$	[A]		
(16) 大きさ $\frac{\mu_0 Q v_2}{4\pi r^2}$	[T]	ソレノイドがつくる磁場との関係 同じ向き, 逆の向き	
(17) $\frac{r}{2}$	[m]		

III

問 1

(1) 波長	$\frac{V - v_A}{f}$ [m]	振動数	$\frac{V}{V - v_A} f$ [Hz]
(2)	台車 A は静止しているので、音源の出す音の波長は $\frac{V}{f}$ [m] である。		
波が t [s] 間に進む距離 Vt [m] と台車 B が t [s] 間に進む距離 $v_B t$ [m] の差を音源の出す音の波長で割ると、台車 B が t [s] 間に受け取る波の数は $\frac{V - v_B}{V} f t$ 個と求まる。			
よって、台車 B で観測される音波の振動数は $\frac{V - v_B}{V} f$ [Hz] となる。			
		答	<u>$\frac{V - v_B}{V} f$ [Hz]</u>
(3)	$\frac{V - v_B}{V - v_A} f$ [Hz]	(4)	$\frac{f(V + v_A) - f_A(V - v_A)}{f(V + v_A) + f_A(V - v_A)} V$ [m/s]
(5)	$\frac{2v_B f}{V + v_B}$ [s^{-1}]	(6)	v_B [m/s]

問 2

(7)	$\frac{F - F_1}{F} c$ [m/s]	(8)	$\sin \omega t_1 = -\frac{F - F_1}{D \omega F} c$
(9)	(い)		

2023年度（令和5年度） 前期日程 化学 解答例

I

問1

ア 発熱 イ 吸熱 ウ 反応熱

問2

(1)

吸熱反応によって溶液の温度は $20.0 - 11.5 = 8.5^{\circ}\text{C}$ 下降

117g の水溶液が 8.5°C 下がる。加えた NaNO_3 は $17/85 = 0.20 \text{ mol}$

従って、 $117 \times 8.5 \times 4.2 \div 0.20 = 20884.5 \approx 21000 \text{ kJ/mol}$ の吸熱

従って 答 - 21 kJ/mol

(2)

溶解度曲線から 10°C では 100g の水に対して 80g の硝酸ナトリウムが溶解する

飽和溶液にするためには、蒸発させる水の量を $x \text{ g}$ とすると

$100 : 80 = (100 - x) : 17$ を解けばよい

$80x = 6300 \quad x = 78.75 \quad \text{答 } \underline{79 \text{ g}}$

問3

(1)

ヘスの法則 (総熱量保存の法則、総熱量不变の法則)

(2) (a)



(2) (b)

200g 中 4.00% は 8.00g なので、 NaOH は 0.200 mol

200g 中 6.30% は 12.6g なので NaNO_3 も 0.200mol である

中和熱が 56.5 kJ/mol なので、

$$56.5 \times 0.200 = 11.3 \text{ kJ} \quad \text{答 } \underline{11.3 \text{ kJ}}$$

(3)

この反応で生成する水は 0.200mol なので 3.60g

NaOH aq は $200 - 8.00 = 192 \text{ g}$ HNO_3 aq は $200 - 12.6 = 187.4 \text{ g}$

系には $192 + 187.4 + 3.6 = 383 \text{ g}$ の水に、 NaNO_3 が 0.200mol すなわち 17.0 g が溶けている

図2より 25°C の飽和溶液では 100g の水に 90 g の NaNO_3 が溶ける。

溶解させる NaNO_3 を $y \text{ g}$ とすると、

$100 : 90 = 383 : (17 + y)$ が成り立つところで飽和溶液となる。

$$1700 + 100y = 34470 \quad \text{これを解いて、} y = 327.7 \quad \text{答 } \underline{328 \text{ g}}$$

II

問 1

ア 黒鉛	イ フラーレン	ウ ダイヤモンド	エ 六角形
オ 共有	カ 一酸化炭素	キ 二酸化炭素	ク 酸
ケ ドライアイス	コ ケイ素	サ 半導	シ 二酸化ケイ素

問 2

(1)



(2) $1.71 \times 10^4 \text{ 年} / (5.7 \times 10^3 \text{ 年}) = 3$

半減期の 3 倍の期間を経過したので、存在率は $\left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{1}{8}$ になる。

したがって、 $1.2 \times 10^{-8} \times \frac{1}{8} = 1.5 \times 10^{-9} \text{ [%]}$

問 3

黒鉛

問 4

二酸化炭素の分子量は 44

$PV = nRT$ より、

$$1.0 \times 10^5 \times V = \frac{33}{44} \times 8.3 \times 10^3 \times 300$$

$$V = 18.675 \approx 19 \text{ [L]}$$

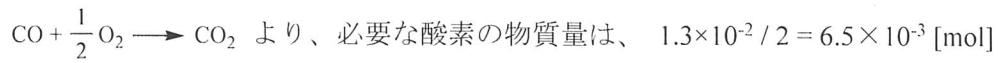
問 5

一酸化炭素と二酸化炭素の総物質量は、 $0.448 / 22.4 = 2.0 \times 10^{-2} \text{ mol}$

二酸化炭素の物質量を $x \text{ mol}$ とすると、

$$0.10 \times \frac{100}{1000} = x + 0.20 \times \frac{30}{1000} \times \frac{1}{2} \quad \text{より、 } x = 7.0 \times 10^{-3} \text{ mol}$$

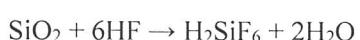
したがって一酸化炭素の物質量は、 $2.0 \times 10^{-2} - 7.0 \times 10^{-3} = 1.3 \times 10^{-2} \text{ mol}$



問 6

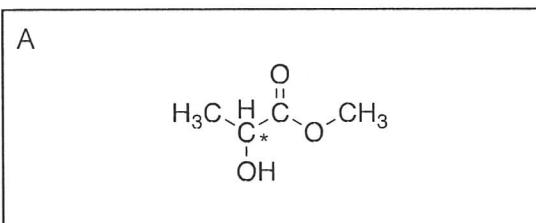
固体が直接気体に、および気体が直接固体になる状態変化

問 7

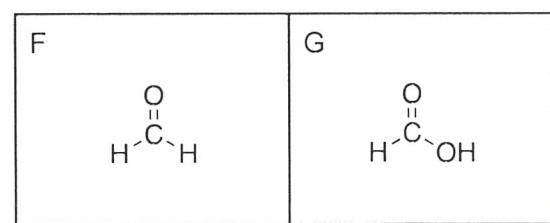


III A

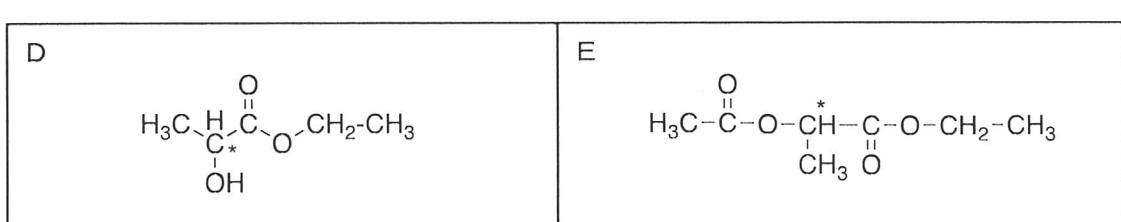
問 1



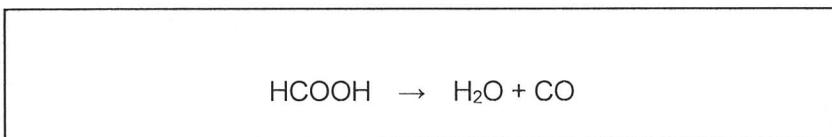
問 2



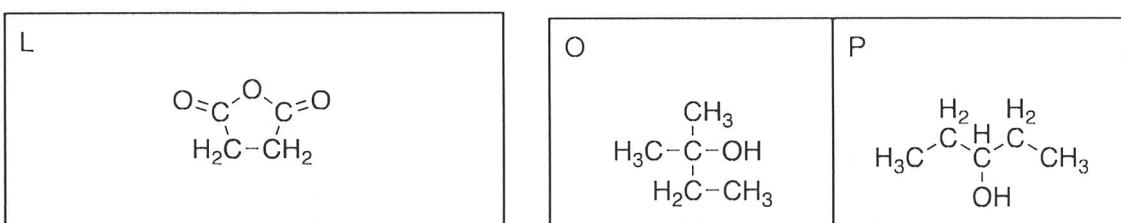
問 3



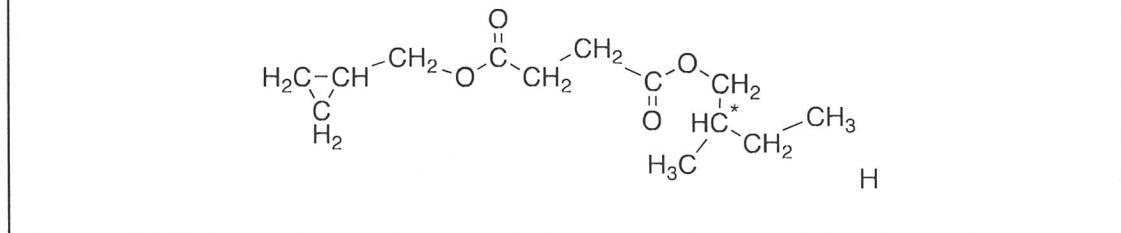
問 4



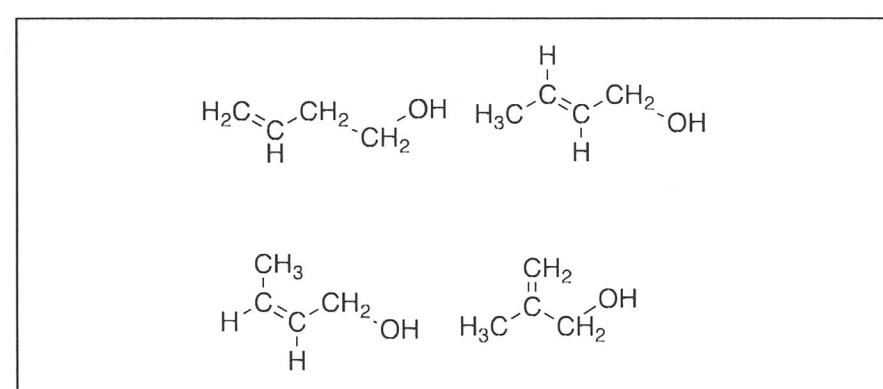
問 5



問 7



問 8



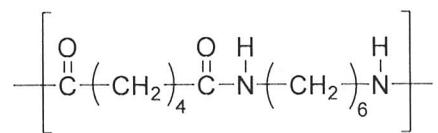
IIIB

問 1

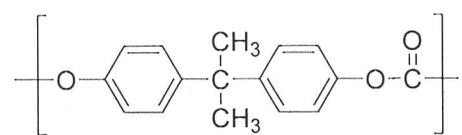
ア 縮合 イ 付加

問 2

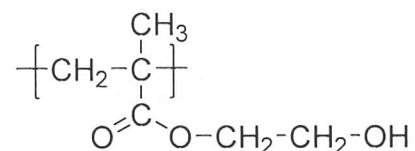
(1)



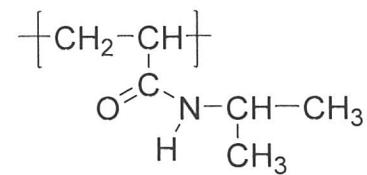
(2)



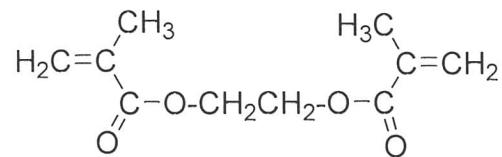
(3)



(4)

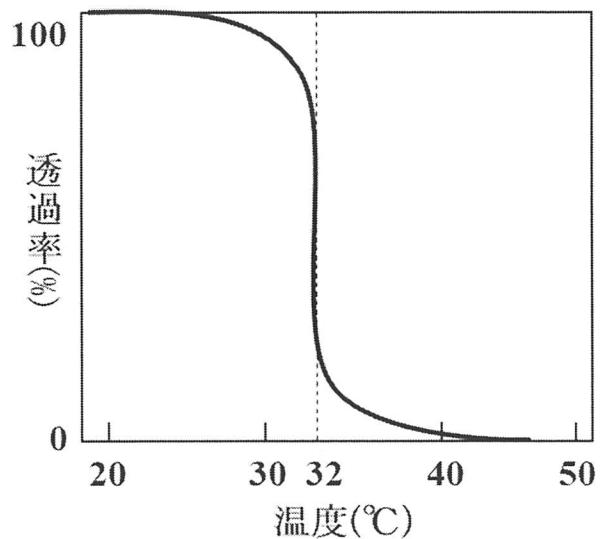


問 3



2つの二重結合が反応し高分子鎖間を結合させるため、架橋構造（橋かけ構造）となる。

問 4



問 5

高分子①：高温

高分子②：低温